



いっし〜通信

〒920-8557
石川県金沢市本多町3丁目1番10号
石川県社会福祉会館2階
TEL:076-207-7770
FAX:076-207-5460
E-mail:icsw@spacelan.ne.jp
URL:https://csw-ishikawa.com/

石川県社会福祉士会は設立30周年を迎えました

30周年記念号

県社会福祉士会が発足

**ソーシャルワーカー
結集し地域に貢献**
会長は陽光園の川上氏

県内で福祉に関する相談・援助などの専門職に就く人たちの組織である「県社会福祉士会」が十七日、発足。県民のニーズにこたえた福祉サービスの質の確保のため、一丸となって努力していくことを誓い合った。

社会福祉士は、いわば国から認可されたソーシャルワーカーで、行政や福祉の現場で社会福祉の増進のために活動している。全国に千九百六十人、県内には十二人おり、今年一月に日本社会福祉士会が設立されたのを受け、都道府県支部として、二十一番目に発足した。会員は十一人。

金沢市の県社会福祉会館で開かれた設立総会では、経過報告や役員選出のほか、関係諸団体との連携強化、生涯研修体制の確立といった当面の活動方針を決めた。役員は次の皆さん。

▽会長 川上芳雄（陽光園）
▽副会長 越孝之（陽光園）
▽真砂良則（八田ホール）
▽理事 端正（鳳寿荘）
寺田由美子（月津保育所）
▽監事 大森万寿夫（陽風園）
岡田文貴（七尾更生園）

専門的技能の研さんや資格制度の充実を目指し開かれた県社会福祉士会の設立総会＝金沢市の県社会福祉会館で

設立総会を伝える新聞記事（北陸中日新聞 1993年4月18日）（承諾済）

設立30周年記念式典

日時 2024年2月17日(土)13:30～15:30
場所 金沢東急ホテル(金沢市香林坊2丁目1番1号)
式典 祝辞、来賓祝辞、来賓紹介・祝電披露、
功労者・永年会員表彰
記念講演 これからの地域社会とデジタル化の推進
講師 西垣 淳子氏
(石川県副知事CDO(最高デジタル責任者))

祝賀会

～これからのソーシャルワークを
みんなで語り合しましょう!～

日時 2024年2月17日(土)17:30～19:30
場所 CARLO CENTRO(カルロチェントロ)
金沢市片町2丁目2番2号 片町きらら2階

※式典および祝賀会の申し込みは
別添「開催要項」及び「祝賀会チラシ」をご覧ください。

30年のあゆみ

1993年に石川県社会福祉士会が発足してから現在まで30年間の主な活動について、振り返ります。

石川県社会福祉士会設立30周年を迎えて



会長 末松 良浩

本会は1993年4月に設立され、今年30周年を迎えました。これまでの間、本会の活動にご理解、ご協力をいただきました県民の皆様、行政をはじめ、関係機関、職能団体そして会員の皆様に心より感謝申し上げます。

いま、我が国の福祉は大きな変革期を迎えています。社会福祉士は地域共生社会という新たな社会像を目指す上で、大きな役割を果たすことが期待されており、時代は、まさにソーシャルワークを求めているといえます。私たちは職能団体として、これからも研鑽を続け、社会福祉の向上に貢献していく所存です。

2024年2月に記念式典を開催します。これまでの活動を振り返り、いま一度、社会福祉士の存在意義を考え、これからの新たな一歩を踏み出す機会にしたいと考えています。そして、希望ある未来に向けて、石川県社会福祉士会の更なる飛躍を皆様と誓いたいと思います。

日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（石川大会）

2015年 7月4日・5日 金沢歌劇座・しいのき迎賓館・金沢東急ホテル

大会テーマ 「これからの福祉実践への架け橋」～社会福祉とコミュニティの再考～

基調講演 阿部志郎氏 神奈川県立保健福祉大学名誉学長

記念講演 辻口博啓氏 石川県七尾市出身パティシエ

参加者 1,229人

当時の担当者から

北脇 宜和

日本社会福祉士会から全国大会の開催について打診があり、折しも北陸新幹線開業の年で返答は「イエス」か「はい」しかないとしました。

私の直感通り、当会理事会において、これを機に組

織力の強化を果たそうと全会一致で決議し、2年の準備期間を経て成功裏に終わることができました。お陰様で大会前に約460名だった会員が今では560名を超え、富山・福井県社会福祉士会はもとより、前・次期開催県・日本社会福祉士会等との絆も深まり、組織が成長するステップになったことを実感しています。





石川大会マスコットキャラクター紹介

いっし〜【ISSEA】



石川県に生息する海の妖精。髪型にこだわりがあり、前髪はSWの文字をかたどり、髪飾りは稲穂。カラーリングは“能登の里山里海（世界農業遺産）”にちなんで青と緑のグラデーションとし、顔～髪型の全体のシルエットは出生地の石川県をイメージしている。2009年7月20日（海の日）出生。好きな言葉「海には国境がない」。好きな科目「公的扶助論」。好きな食べ物「甘エビ（A）、カニ（K）、プリ（B）」。

＊いっし〜デザインの名刺をご利用されたい方は、台紙データをお送りいたします。ご連絡は事務局まで。

災害支援活動

2007年 能登半島地震

2007年3月25日（日）能登半島沖を震源地とする県内観測史上過去最大の地震が発生。輪島市地域包括支援センター等関係機関からの要請により、被災地の高齢者の方々の生活不活発発病の調査、ボランティアニーズ受付等の支援に携わる。



石川県厚生政策課を訪ね岡田文貴会長から義援金目録を手渡しました。

2011年 東日本大震災

5月21日 総会・リレートーク「社会福祉士として被災者支援について考える」



東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状受賞！

2013年5月13日 堂田俊樹会長が石川県長寿社会課三浦課長より感謝状を受け取りました。

当時の担当者から 東日本大震災への支援

橋直

2011年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が起きました。当時、私は支援担当理事として北陸三県の会員と連携しながら宮城県を中心とした被災地へ支援にあたりました。震災直後は特に医療や安否確認、ライフラインの回復といった生命に直結するニーズが高いなか、現地の地域包括支援センターの社会福祉士をサポートできればという思いで避難所や仮設住宅の訪問などをさせていただきました。11年経った今もおインフラや産業など回復途上にありますが、当時の記憶は色あせることはありません。

2023年5月5日 奥能登地震

能登半島沖を震源とするM6.5（珠洲市で震度6強）の地震が発生。珠洲市社会福祉協議会災害ボランティアセンターからの要請により、社協職員とともに現地調査スタッフとして活動する。

2023年8月 災害支援委員会設置

特徴的な事業紹介

成年後見センターぱあとなあ石川(旧:権利擁護センターぱあとなあ石川)

■ 活動内容

- ・ ぱあとなあ石川の運営(成年後見人等候補者の名簿登録・管理、相談事業等)
- ・ 成年後見人の養成・候補者の紹介・受任者への支援

2002年 ぱあとなあ石川設置
2002年 成年後見制度連絡協議会設置
2014年 業務監査委員会設置
2023年 活動報告書システム導入

○委員数 90人

当時の担当者から

西脇 瑞枝

「ぱあとなあ石川」設置時は、丁度私が社会福祉士の資格を取った時期でもある。当時のメンバー10名が、日本社会福祉士会が行う第1回～第2回の研修を受講した。全国研修に参加するたび、他県の「ぱあとなあ」の熱い活動に影響を受け、熱気を持ち帰り、活動の基盤を仲間で作りを上げた。身上監護を得意とする専門職後見人として、そして権利擁護の担い手として今後も益々活躍してくれることに期待している。初期の頃を思いだすと、寺田さん大川さん寺井さん成田さんの活躍が、大きな力になり力強かったことを感謝している。

生涯研修センター(基礎研修事業)

■ 活動内容

生涯研修制度の運営

- ・ 基礎課程(基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)
- ・ 専門課程(共通研修・分野別研修)

1999年 日本社会福祉士会(旧)生涯研修制度開始
2012年 日本社会福祉士会(新)生涯研修制度開始
石川県社会福祉士会生涯研修センター設置
基礎研修Ⅰ開始
2013年 基礎研修Ⅱ開始
生涯研修制度基礎課程北陸三県会員相互参加協定締結
2014年 基礎研修Ⅲ開始

当時の担当者から

吉川 敦

生涯研修制度をご存じでしょうか?なんとなく知っているとか、ちょっと難しそうとか、自分には縁のないものにしてしまっていないですか。われわれ社会福祉士は、ソーシャルワーク専門職である限り「基礎研修」を含めた生涯にわたる研修は欠かせません。生涯研修制度は、専門職団体である社会福祉士会の大切な柱の一つであるとともに、社会福祉士個人の専門性と実践力の向上への助けとなるものです。

地域包括ケア推進委員会(旧:包括支援委員会)

■ 活動内容

地位包括ケアを推進する人材を育成

- ・ 事例検討・意見交換会
- ・ 地域包括支援センター職員研修
基礎研修(石川県委託)

2006年 包括支援委員会設置
2018年 地域包括ケア推進委員会設置
(包括支援委員会を拡充)
2019年 研修受託(石川県地域包括支援センター職員研修(基礎研修)事業)

○委員数 50人

当時の担当者から

中 恵美



2006年に、地域包括支援センターに社会福祉士が「必置」となりました。私たちの仕事認められたうれしさの反面、大きなプレッシャーにも感じていた、そのときのどきどきわくわくを思い返します。そこで、会員同士が、お互いに支え合い、学び合い、育ちあい、個や地域の支援に向けた力をつけていく必要から生まれた委員会です。さらに、時代の要請を受けて、分野を超えた学び合いの会へと発展し、今にいたっています☆ つづく…

高齢者・障害者虐待対応委員会

■ 活動内容

- ・ 高齢者・障害者虐待対応専門職チームの事例検証
- ・ 高齢者・障害者虐待標準研修等の各研修講師や、研修プログラム、研修教材作成等

【石川県高齢者・障害者対応専門職チーム】

当会、金沢弁護士会、石川県精神保健福祉士会、石川県相談支援専門員協会の4団体で構成。弁護士、SW2名で相談、市町に出向き派遣相談活動を行う。

2009年10月 事業開始

2017年10月 委員会設立

2021年 4月 研修受託（石川県高齢者虐待対応現任者標準研修事業）

2023年 4月 研修受託（石川県障害者虐待研修実施事業）

2023年 7月 委員人数 54人



当時の担当者から

小鍛治 康生

2009年9月に金沢弁護士会との協定により、石川県高齢者虐待対応専門職チームが設置され、事業が始まりました。2012年9月には、石川県精神保健福祉士会と石川県相談支援専門員協会が加わり障害者虐待にも対応する専門職チームになりました。2017年10月には委員会が設立され多くの会員が参加する活動になっています。初代委員長の寺本紀子さん、橋典孝さんをはじめ諸先輩方からは多くのことを教えていただきました。本当にありがとうございました。

子ども家庭支援委員会（旧:スクールソーシャルワーク委員会）

■ 活動内容

主に下記の活動を行っています。

- ・ 子どもや家庭にかかる事例検討や研修会の開催
- ・ スクールソーシャルワーカーの育成・候補者の推薦・啓発

具体的には、2か月に1度定例会を開催し、勉強会や情報交換を行うとともに、委員および会員を対象とした研修を開催しています。

2016年度、スクールソーシャルワーク委員会として設立

2022年度より、スクールソーシャルワークに限定せず、子どもや家庭に係るソーシャルワークについて考える委員会に拡充

○委員数 40人



当時の担当者から

茂尾 亜紀

私は、スクールソーシャルワークに関心があり、委員会設立後、間もなく入会をしました。当時は、スクールソーシャルワーカーとして活動していませんでしたが、業務にも間接的に参考になることが多くありました。今も悩むことがあったときに、委員会のメンバーに相談すると、ソーシャルワークの原点に立ち返った意見や、新たな視点にたった気づきをもらえます。

ソーシャルアクション活動

■ 活動内容

2018年 「生活保護基準額の引き下げに係る影響緩和への取り組みに関する陳情書」をSW3団体合同で県議会及び県選出の国会議員に提出

2022年 「地域共生社会推進に向けての福祉専門職支援議員連盟」について県選出の国会議員に趣旨説明及び総会への出席を依頼

2023年 「子ども家庭ソーシャルワーカー」資格化に関する活動

「成年後見制度利用支援事業（報酬助成）の拡充に関する要望書」を成年後見制度連絡協議会から市町へ提出

当時の担当者から

島野 桂太郎

社会福祉士会の役割に県民の福祉の向上と社会福祉士の地位向上の取組があります。石川県士会でも日本社会福祉士会や石川県精神保健福祉士会、石川県医療ソーシャルワーカー協会などと連携し、制度を作る側である行政や政治家に対して要望活動、署名の提出等のソーシャルアクションを行ってきました。児童福祉司制度について、新たな資格を作るのではなく、社会福祉士・精神保健福祉士を基礎資格としての制度設計へ話が進んでいることはソーシャルアクションの1つの成果と言えるでしょう。



組織強化活動

■ 活動内容

社会福祉士会の活動の活性化や、会員の連携強化に繋がる活動を企画、実施
能登・金沢・加賀ブロックの活動とも連携

顔合わせ会を5月の総会後に実施
(2021年～2022年は中止)

社会福祉士国家試験受験者へ富山、福井、石川の県士会合同での合格後の会員募集のチラシ配り
(2020年～2023年中止)

金沢城リレーマラソン参加
(2019, 2022, 2023)

いしかわ介護フェスタ
(2020, 2021年は中止)

当時の担当者から

垣内 光子

組織強化委員会から「組織事業強化部」と、新たに部として活動がスタートし、能登、金沢、加賀ブロック委員会と協力しながら、組織の活性化を図る目的に、会員の声を直接聞くため2022年度に、運営や研修、会について思うことなどアンケートをさせていただきました。しかし、回答率が低かったことから、周知方法や回答率を上げるための工夫も必要と反省ばかりでした。

「組織事業強化」は、入会促進はもちろん重要ですが、会員の方が積極的に委員会活動や、研修に参加していくこと。会員相互のコミュニケーションが活発で、交流の機会が充実することだと思います。「あなたと一緒に、学びの場、活動実践の場、ネットワークづくりの場を社会福祉士会はつくりたい」と新規会員案内に告知していますが、会員一人ひとりが社会福祉士としてのキャリアの幅が広がり社会福祉士ならではのネットワークが作れるように、これからも、組織事業強化部では、能登、金沢、加賀ブロック委員会と協働し取り組んでいきたいと思っています。

顔合わせ会



2009年5月23日
ホテル金沢



2012年5月19日
金沢エクセルホテル東急



2014年5月24日
金沢東急ホテル

ブロック等交流会 サマーキャンプ・ウインターキャンプ・BBQ等



イベント参加 (金沢城リレーマラソン・介護フェスタ・学園祭)



国家試験チラシ配り



新理事紹介

山元 英輝



理事就任前は、あまり石川県社会福祉士の活動に参加する機会も少なく正直、「理事になれるなんて…」と想像もつかなかったです。

今回、生涯研修部の理事になったことがきっかけで、多くの会員の皆様と基礎研修などの活動を通して知り合う機会が増え、知識や技術などについて一緒に学ぶことが増えたことに嬉しく思っています。

これから基礎研修部の活動をSNSにアップして、多くの皆様が興味を持っていただけるように頑張っていきますので宜しくお願いいたします。

平元 恵津子



皆さま、こんにちは。私が社会福祉士会に入会したきっかけは、大先輩からの

「あなた、社会福祉士会には入会しているの？」という言葉でしたが、その後も会に所属することは私にとって自然なことで、今日に至ります。

様々な分野で活躍している先輩方に勇気づけられ、悩みを共有できる仲間とのご縁は自分の中で貴重な財産になっています。そんな魅力的な社会福祉士会を沢山の方に知っていただき、仲間になって欲しい。そのために微力ながら理事として、活動してゆきたいと思っています。

小堺 有希



今年度、ソーシャルワーク推進部理事を拝命しました。高齢者・障害者虐待対応委員会の担当をさせていただきます。普段は法律事務所でソーシャルワーカーをしています。

生活上で困りごとが生じた際、困りごとの解消に向けたアプローチと同時に生活を継続するためのアプローチが必要になります。各分野のソーシャルワーカーが、社会福祉士会での活動を通して連携・協働し、より質の高いソーシャルワーク実践ができるように、理事として何ができるかを考えたいと思います。

新入会員紹介



川島 真希 まき助産院 石川県助産師会理事 訪問看護ステーション：ねんねこ

社会福祉士会に入会しました川島真希です。助産師歴20年余り、白山市でまき助産院を開設して14年目を迎えました。助産師は医療職ですが、周産期（妊娠分娩産褥期）を主軸に関わるwell-beingケアを担います。開業助産師は病院等の施設助産師の期間に限られる支援とは異なり、親になる前からも含めて、人の一生に関わらせて頂く機会を頂戴しています。

私は地域で生活する家族・子育て支援のみならず、開業と同時にはじめた小中高大学・特別支援学校・児童養護施設・保護者・教員の方々等への性教育を行ってきました。その目的は、誰も死なせたくないという虐待予防の視点で続けてきております。開業助産師として地域で子育て支援に携わるなかで、医療の視点だけでは一緒にしていくことができない様々な課題を抱える方々と出会いました。私の持ちうる知識

や経験だけでは到底一緒にするのに足りないことを痛感し、どのような視点を持つことが必要なのかと考えていたなかで、尊敬する社会福祉士の先輩との出会いがありました。

対人援助に就くものとして、ひとりよがりの見立ての恐ろしさに気づかせて頂いたこと、福祉を学びたいと沸き起こってきた気持ちの後押しをして頂き、社会福祉士を志しました。その先輩から頂いた「相談なめんな！」という言葉は、日々私の背筋を伸ばしてくれます。学び続けること、自己研鑽が大事であることは助産師も同じではありませんが、社会福祉士として従事しているわけではない私にとって、各種委員会と一緒にさせて頂くことや基礎1研修での学びは、私の仕事に対する覚悟を持ち続ける大変貴重な機会を頂戴しています。この学びを糧に医療の視点だけではない地域に根差した活動をしていきたいと思っています。



松浦 佐奈絵 金沢市役所 生活支援課 生活困窮者就労支援員

現在の職場での主な業務は、住居確保給付金を担当しています。コロナ禍には申請者が増加し、多い月には200人を超えていました。その時期は一人一人の対象者に対し、しっかりと向き合えず、きめ細やかな支援が出来ず悔しく感じました。ただ、対象者の枠が広がったことで、これまで表面化しなかった対象者が支援につながったことは良かったことだと感じています。現在は通常業務となり、相談窓口も市社協となったことで相談件数は減少しています。

今日、給付期間が終了後であっても、その時々困りごと

を相談しに来られる方も多く、いつでも相談が出来る場所があることが大事だと感じています。そのような方々の相談に寄り添いながら一緒に考え、よりよい支援に繋げていきたいと想い日々頑張っています。その為にも、自分が常に自己研磨することが必要だと思います。社会福祉士会に入会させて頂き、自己研磨の場が多くある環境にとっても感謝しています。入会したことで皆様から刺激を受け、さらに頑張りたい気持ちが強くなりました。これからも宜しくお願い致します。

●金沢城リレーマラソンに参加しました！

介護老人福祉施設 千寿苑 達 一樹

社会福祉士会の有志で、10月1日に金沢城リレーマラソンに参加致しました。朝は曇っていましたが、途中から快晴となり絶好のマラソン日和でした。順位は決して良い方ではありませんでしたが、チーム一丸となって好タイムを目指したので、参加した意義があったと思っています。

私は今年度から社会福祉士会に入会しましたが、新しく入ったばかりの私も先輩方と気兼ねなく活動させていただきとても楽しかったです。そして、私達、社会福祉士は普段、仕事でクライアントと制度、機関、福祉を繋いでいますが、今回は普段、所属の違う社会福祉士同士がタスキを繋ぎ、結束が芽生えたのではないかと感じています。

社会福祉士会では研修の他にもこのようなアットホームな繋がりを作る活動も行っています。皆さんも是非、社会福祉士会の活動に参加してタスキを繋いでみませんか？



末松会長も激走！

●野球部発足～部員募集中!!～

金沢ブロック理事 越村 悠

今年度、社会福祉士会の野球部を発足しました。きっかけは、リレーマラソンのイベントが大盛況だったことと、他職能団体に対戦するチームがあったことが理由でした。

リレーマラソンには、誰でも参加できるイベントを開催してほしいという声がかっかけて参加するようになりました。このイベントでは初めて会の活動に参加する方や社会福祉関連の学生の参加もあり新鮮な交流の機会となりました。この活動に参加した方が、その他の委員会への参加や社会福祉士会の入会に繋がったことから、このようなイベントを継続していくことが大切だと感じました。

リレーマラソンに続くクラブ活動を検討する上で、野球を選んだ理由は他職能団体に野球部があり、試合の相手を探していることでした。明確な対戦相手がいるため、大会に出場しなくても試合ができること、他職能団体と繋がるきっかけにできることから、交流イベントに適していると感じました。

現段階では対戦相手との調整中で試合はできていませんが、集まったみんな練習を始めています。リレーマラソンと同様に、野球がかっかけて新しい会員との繋がりができており、楽しんで活動しています。

現在、部員は17名（内女性5名）で約8割の部員が初心者です。みんな体力的に1試合通して出場できないこと、試合当日に全員揃わないことからまだまだ部員が足りません。もし、少しでも興味がありましたら初心者大歓迎なので事務局まで気軽にご連絡ください。



●顔合わせ会 4年ぶりの開催！

会員 杉 由紀

2023年5月27日（土）、ANNホリデイイン・金沢スカイにて「顔合わせ会」が4年ぶりに開催されました。コロナ禍のため延期が続いていた中、本当に待ちに待った開催となりました。

初めに、今年度より新たに就任した末松会長より挨拶がありました。とても丁寧で穏やかな雰囲気でのスタートとなり、続いて、長年当会としてご尽力を頂いた堂田名誉会長と、吉川元理事に、会を代表し末松会長から花束贈呈が行われました。お二人とも晴れ晴れとしたご様子で、今までのご苦勞と、沢山のことをやり遂げたという達成感が感じられました。

お楽しみイベントでは、「和太鼓OTOsound」の皆様をお迎えし、和太鼓の演奏を披露して頂き、ドーンと心の奥にまで力強く響く音は、対面が可能になりつつある新しい生活の幕開けのようでした。会員も演奏に参加し、会場一体となって楽しみました。ラストは、社会福祉士の試験を突破し、新規にご入会頂いた会員の皆様に、花束を贈呈し歓迎の気持ちをお伝えしました。新規ご入会の皆様は、初めは緊張した面持ちでしたが、会員と楽しく食事を囲み、笑顔でコミュニケーションを楽しんでおられました。ここ数年でリモートが主流になり、自宅からでも気軽に研修や会議に参加できるようになったことは、大きなメリットとなりましたが、今回のように、人と直に接し、場の雰囲気を一緒に感じる事ができる機会は、とても貴重で大切なことだなあと改めて思いました。

新しい組織のスタート、そして新規入会の皆様の社会福祉士としてのスタート。心強く感じたひとときとなりました。



新入会員のみなさん



太鼓を体験

●いしかわ介護フェスタ2023に参加

理事 垣内 光子



2023年11月4日（土）、石川県主催のいしかわ介護フェスタに参加しました。「介護」をテーマに、参加・体験型のイベントです。当会の活動内容のPRとして展示スペースを設け、福祉・権利擁護相談として成年後見制度の相談窓口、エンディングノートや認知症の絵本の展示のほか、コミュニケーションや、高齢者の知恵等をテーマにした紙芝居の実演を行いました。お友達と仲良く遊ぶ。人への思いやりが持てるように紙芝居から子ども目線で考えてもらうことができたかと思えます。参加してくれたお子様にはお仕事体験のスタンプラリー

にスタンプを押し、あめちゃんをプレゼントし交流を楽しみました。また、馳浩石川県知事や、MROマスコットキャラクターのてみじいもブースに来て下さり、紙芝居を楽しんでいただきました。

このイベントは医療・福祉に関係する団体や企業、学校が参加しています。来場された高齢のご夫婦から「社会福祉士って何をしているんですか」と質問もあり活動を紹介。今後も会のPR活動には重要なイベントだと感じました。会長をはじめ、会員の皆さんが沢山顔を出してくれ、会員同士の交流も深まりました。紙芝居が得意な会員の協力もあり、ご覧になられた方は興味津々で楽しんでもらえました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

● 能登・加賀ブロック合同研修会を開催して

能登ブロック理事 山形 優子

コロナ禍でオンライン研修が普及し、私の住む珠洲のような僻地でも移動時間のロスを考えることなくいろいろな研修会に参加することができるようになりました。それは能登ブロックだけでなく、加賀ブロック理事も同様のことを言っており、どうせなら一緒に合同研修会をしませんか、と持ち掛けたことから、このような合同研修会を令和3年度から行っています。令和3年度はファシリテーション技法について、令和4年度は在宅医療における現状について、ごちゃまるクリニックの小浦友行先生を講師に研修会を企画しました。能登や加賀、そのブロックによって地域の色があり課題も様々ですが、会員数が少なく研修会をしても参加者が集まりにくいという点は能登も加賀も同じです。お互いの地域の特徴や課題、新しい取り組みを知ること、視野を広げ、新しい気づきや学びを得るために大切なことだと思います。今年度もまだ内容は決まっていますが合同研修会を企画しています。

ブロックを超え、広い地域に目を向け、いろいろな人との繋がりや関わりを作る研修会にしていきたいと思っています。詳細が決まりましたらお知らせします。皆さんの参加をお待ちしております。



講師の小浦友行先生

● 今年も好評！ スーパーボールすくい

広報委員長 大田 健志

2023年9月3日、松ヶ枝福祉館及び松ヶ枝緑地にて、「福祉のつどい金沢2023」が開催されました。社会福祉士会では、毎年恒例のスーパーボールすくいを出展しました。昨年は資材が不足するほど怒涛の勢いでしたので、今年は多めにスーパーボールや資材も準備して万端にして臨みました。そうは言っても、今年の猛暑は深刻です。どれだけの来場者がいらっしゃるか不安でしたが、フタを開けてみれば昨年を超える164人の方楽しんでいただけました。



来場ペースはまばらでしたが、その分ゆったりと親子、きょうだいで楽しまれたりスタッフとおしゃべりしながらチャレンジしてくださったり、他の出展団体の方も遊びにきていただいて、とても盛り上がりました。今年の記録は47個。記録更新を狙って何回もチャレンジされる方や、一方でうまく取れなくて泣いちゃう子もいましたが、また来年リベンジに来てくれたら嬉しいなあと思います。長年楽しませてくれた機材もボロが来てしまったので、来年はモーターもプールも新調する予定です。スーパーボールすくいのスタッフは毎年募集中ですので、気になる方は事務局か広報委員会までご連絡ください！



事務局インフォメーション

お知らせ

石川県社会福祉士会ホームページの『会員ページ』について

会員ページは理事会議事録、求人情報等の情報を掲載しています。
会員ページの閲覧にはパスワードが必要ですので、ログインご希望の方は事務局までご連絡ください。



石川県社会福祉士会 HP <https://csw-ishikawa.com/>

★e-ラーニング講座を視聴しよう!

公益社団法人日本社会福祉士会では、ICT を活用して、社会福祉士に必要な知識（生涯研修、専門的な知識・制度施策の動向）等を学ぶ講座の提供を行っています。各種講座はインターネットを介して視聴が可能です。

日本社会福祉士会と石川県社会福祉士会との覚書の締結により、石川県社会福祉士会の正会員は、2020年10月から『日本社会福祉士会e-ラーニング講座』の多くの講座の視聴が無料（一部有料の講座もあります）となりました。

受講手順は、日本社会福祉士会ホームページ内の「e-ラーニング講座」のページから、「e-ラーニング講座のご利用方法」をご覧ください。ぜひ積極的にご活用ください。



公益社団法人日本社会福祉士会 e-ラーニング講座
<https://www.jacsw.or.jp/csw/eLearning/>
※ご不明な点があれば、お気軽に事務局までご連絡ください。

編集後記

今回は、30年記念号として会の歴史、石川の特徴的な取組を振り返る特集を企画しました。社会に目を向けると、感染症の流行、頻発する災害、そして戦乱。30年前には想像もつかない世情の中、社会福祉士に必要な資質や技能も30年で変容しています。しかし、根本として、国民・県民一人ひとりの尊厳ある生活と人権を保障する、福祉専門職としての社会福祉士、そして当会の存在意義は未来永劫揺るがないことでしょう。広報としても、これからも会の多彩な活動の魅力や意義を少しでも伝えられるよう頑張りたいと思います。81号も特集号を予定していますので、乞うご期待ください。

広報委員長 大田 健志